

令和元年度 市内遺跡発掘調査報告書

2020

甲賀市教育委員会

令和元年度 市内遺跡発掘調査報告書

2020

甲賀市教育委員会

序

甲賀市は滋賀県の南東部に位置し、国指定史跡である「紫香楽宮跡」・「垂水斎王頼宮跡」・「甲賀郡中惣遺跡群」・「水口岡山城跡」をはじめ、現在、約 530 箇所 of 埋蔵文化財包蔵地が確認されています。

これらをはじめとする地域に残る文化財は、先人から受け継いだ大切な財産です。この「地域の宝」を守り伝えていくことが私たちの責務であると考えます。また、地域の歴史を明らかにすることは、郷土への愛着や誇りの機運の醸成につながっていきます。

教育委員会では、市内の開発行為に伴い試掘・確認調査を実施しています。平成 30 年度の試掘・確認調査では、新たな遺構は確認されなかったものの、これまでに発掘調査を行っていなかった遺跡で調査を実施することができ、新たなデータを得ることができました。小さな成果ではありますが、今後、本報告書が本市の歴史を解明する一助となることを願っております。

最後になりましたが、本報告書を刊行するにあたり、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

令和 2 年（2020 年）3 月

甲賀市教育委員会
教育長 山下 由行

例 言

1. 本書は甲賀市教育委員会が平成 30 年度に実施した試掘調査の概要をまとめたものである。
なお、本書に掲載した調査は、平成 30 年度に現地調査を実施し、令和元年度に整理調査を実施した。
2. 本書で報告している試掘調査にかかる経費は、国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金（国庫補助金）および滋賀県文化財保存事業費補助金（県費補助金）を得た。
3. 平成 30 年度および令和元年度の甲賀市教育委員会における調査体制は以下の通りである。
【平成 30 年度】
調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 山下 由行
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課
課長 長峰 透
課長補佐 兼 埋蔵文化財係長 鈴木 良章
主査 小谷 徳彦
主査 渡部 圭一郎
技師 伊藤 航貴（調査担当者）
【令和元年度】
調査主体 甲賀市教育委員会 教育長 山下 由行
調査事務局 甲賀市教育委員会事務局 歴史文化財課
課長 吉川 寛
課長補佐 鈴木 良章
埋蔵文化財係長 小谷 徳彦
主査 渡部 圭一郎
技師 伊藤 航貴（調査担当者）
4. 本文の執筆・編集は伊藤が行った。また、本書に掲載した図面の作成は伊藤が担当した。
5. 本書で示す北は座標北である。
6. 本書で報告した発掘調査で出土した遺物や、本書に掲載した図面・写真類については、甲賀市教育委員会が保管している。

目 次

全体概要	1
18-03・27次 水口城遺跡の調査.....	3
18-12次 上田城遺跡の調査.....	7
18-16次 植城遺跡の調査.....	10
18-18次 美濃部出屋敷遺跡の調査.....	13
18-19次 木内城遺跡の調査.....	16
18-23次 中牧遺跡の調査.....	19
18-24次 下川原遺跡の調査.....	22
18-25次 下浦遺跡の調査.....	25
18-26次 水口岡山城遺跡の調査.....	28

全体概要

甲賀市において平成30年度に実施した埋蔵文化財の発掘調査は、開発事業などにかかる試掘調査が28件、分布調査が3件であった。

これらのうち、周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内で実施した調査が11件、同範囲外で実施した調査が21件であった。範囲外の調査は「甲賀市みんなのまちを守り育てる条例」の規定に基づき、開発事業の実施に先立ち、遺跡の有無を確認するために調査を実施したものである。なお、開発に伴う調査の件数は、平成29年度より4件増えている。

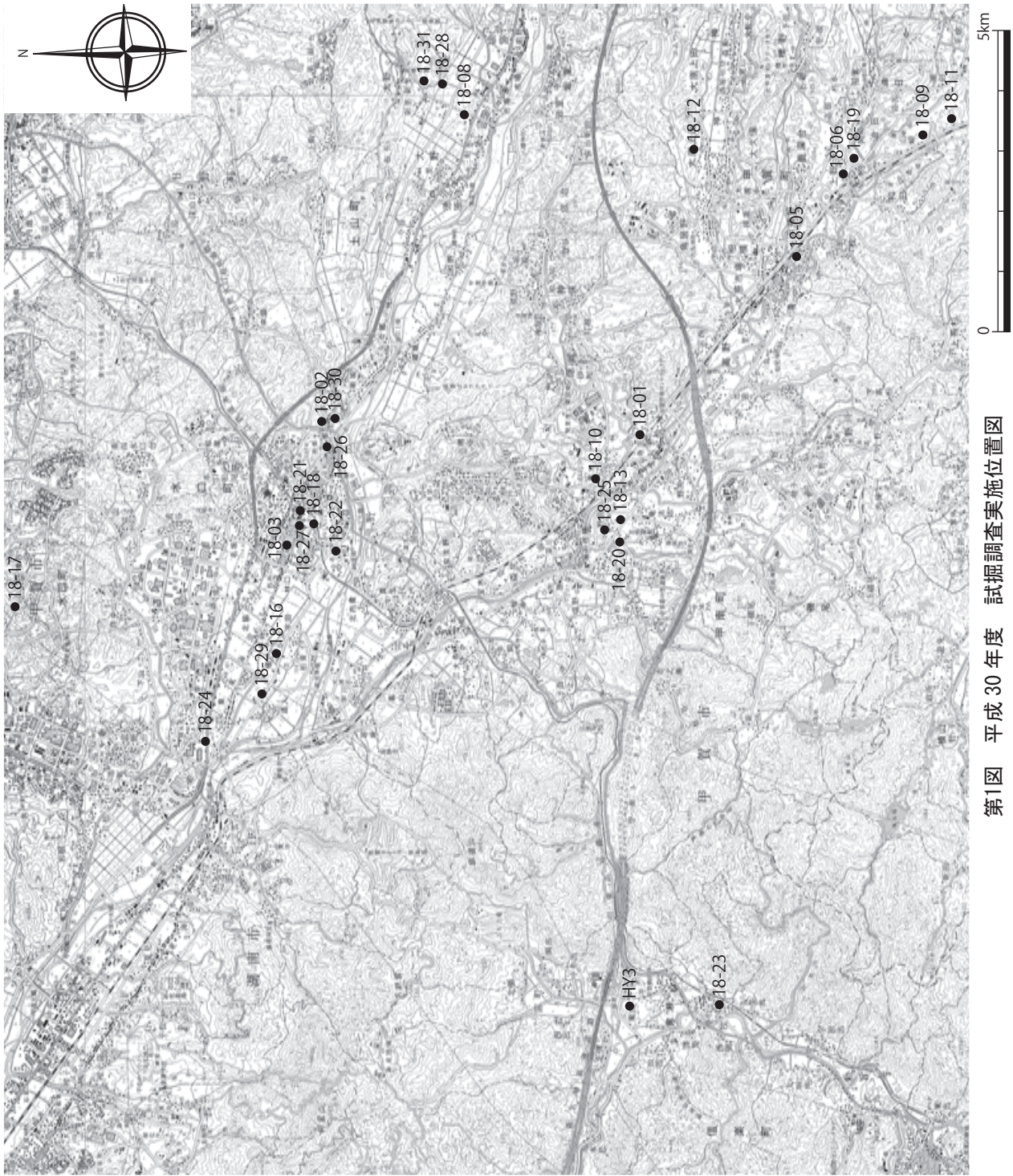
表1に平成30年度に実施した試掘・分布調査を一覧表にして示した。遺物の出土を確認した調査が1件、遺構の存在を確認した調査は1件であった。

東山遺跡については、平成30年度に遺構を確認した東山遺跡第3次発掘調査は、平成29年度に実施した東山遺跡第2次発掘調査に引き続いて行ったもので、この調査成果については、第1・2次調査の成果を含めて、令和2年度に『東山遺跡発掘調査報告書』を刊行予定である。

本報告書では、東山遺跡を除く遺跡内で実施した試掘調査について、その概要を記述する。

表1 平成30年度に実施した試掘・分布調査一覧

NO	内容	調査 回数	調査 開始日	調査 終了日	調査地			目的	目的 詳細	遺跡 有無	遺跡 名称	結果				
					町名	大字	小字					調査面積	遺物	詳細	遺構	詳細
1	試掘	18-01次	H30.04.11	H30.04.11	甲南町	寺庄	木戸	n 宅地造成	分譲宅地造成	無		39.00	×		×	
2	試掘	HY3	H30.05.16	H30.11.12	信楽町	黄瀬		w その他開発	事前確認調査	あり	東山遺跡		×		○	掘立柱建物
3	試掘	18-02次	H30.05.31	H30.05.31	水口町	水口	坊山	n 宅地造成	分譲宅地造成	無		45.00	×		×	
4	試掘	18-03次	H30.07.03	H30.07.03	水口町	城内		m その他建物	長所関係関係	あり	水口城遺跡	13.00	△		瓦、陶器	×
5	分布調査	18-04次	H30.07.10	H30.07.10	水口町	八田	上水口	w その他開発	太陽光発電所	無		9,916.59	×		×	
6	試掘	18-05次	H30.07.27	H30.07.27	甲賀町	田堵野	岩ノ上	w その他開発	太陽光発電所	無		60.00	×		×	
7	試掘	18-06次	H30.08.08	H30.08.08	甲賀町	上野	才作	w その他開発	太陽光発電所	無		12.00	×		×	
8	試掘	18-12次	H30.09.21	H30.09.21	甲賀町	大原上田		w その他開発	国は、作業道の作設	あり	上田城遺跡	12.00	×		×	
9	分布調査	18-07次	H30.08.17	H30.08.17	土山町	北土山	岩井谷	w その他開発	*****	無		179,710.00	×		×	
10	試掘	18-08次	H30.08.24	H30.08.24	土山町	大野	澤	j 工場	工場	無		24.00	×		×	
11	試掘	18-09次	H30.09.05	H30.09.05	甲賀町	油日	長井手	w その他開発	太陽光発電所	無		12.00	×		×	
12	試掘	18-10次	H30.09.05	H30.09.05	甲南町	葛木	宇田	k 店舗	コンビニエンスストア	無		9.00	×		×	
13	試掘	18-11次	H30.09.20	H30.09.20	甲賀町	油日	九十苅	w その他開発	太陽光発電所	無		12.00	×		×	
14	試掘	18-13次	H30.10.05	H30.10.05	甲南町	野田	塚本	k 店舗	ドラッグストア	近接地	沢尻遺跡	47.00	×		×	
15	分布調査	18-14次	H30.10.16	H30.10.16	水口町	新城	陀輪	w その他開発	太陽光発電所	無		9,788.17	×		×	
16	試掘	18-15次	H30.10.10	H30.10.10	土山町	黒川	市場	w その他開発	太陽光発電所	無		18.00	×		×	
17	試掘	18-16次	H30.11.13	H30.11.13	水口町	植	城ノ内	i 個人住宅	個人専用住宅	あり	植城遺跡	6.00	×		×	
18	試掘	18-17次	H30.10.29	H30.10.29	水口町	春日	四方谷	w その他開発	太陽光発電所	無		21.00	×		×	
19	試掘	18-18次	H30.10.29	H30.10.29	水口町	八光		i 個人住宅	個人専用住宅	あり	美濃部出屋敷遺跡	3.00	×		×	
20	試掘	18-19次	H30.11.13	H30.11.13	甲賀町	上野	才作	i 個人住宅	個人専用住宅	あり	木内城遺跡	3.00	×		×	
21	試掘	18-20次	H30.12.10	H30.12.10	甲南町	野田	フケ	w その他開発	駐車場	無		9.00	×		×	
22	試掘	18-21次	H30.12.12	H30.12.12	水口町	八光		n 宅地造成	分譲住宅	無		18.00	×		×	
23	試掘	18-23次	H31.03.01	H31.03.01	信楽町	牧	稲葉	i 個人住宅	個人専用住宅	あり	中牧遺跡	3.00	×		×	
24	試掘	18-22次	H30.12.27	H30.12.27	水口町	水口	狐塚	k 店舗	店舗用地開発	無		18.00	×		×	
25	試掘	18-24次	H31.02.08	H31.02.08	水口町	泉	中ノ切	k 店舗	コンビニエンスストア	あり	下川原遺跡	4.00	×		×	
26	試掘	18-25次	H31.01.28	H31.01.28	甲南町	野田	下浦	n 宅地造成	分譲住宅	あり	下浦遺跡	24.00	×		×	
27	試掘	18-26次	H31.02.04	H31.02.04	水口町	秋葉		i 個人住宅	個人専用住宅	あり	水口岡山城遺跡	6.00	×		×	
28	試掘	18-27次	H31.02.04	H31.02.04	水口町	梅が丘		i 個人住宅	個人専用住宅	あり	水口城遺跡	9.00	×		×	
29	試掘	18-28次	H31.02.12	H31.02.12	土山町	大野	曲り木	w その他開発	太陽光発電所	無		9.00	×		×	
30	試掘	18-29次	H31.02.12	H31.02.12	水口町	酒人	青井	j 工場	*****	無		15.00	×		×	
31	試掘	18-30次	H31.03.12	H31.03.12	水口町	新城	立石	w その他開発	太陽光発電所	無		45.00	×		×	
32	試掘	18-31次	H31.03.12	H31.03.12	土山町	大野	土々ヶ谷	j 工場	工場建設	無		3	×		×	



第1図 平成30年度 試掘調査実施位置図

18-03・27次 水口城遺跡

調査位置と調査経緯

水口城遺跡は、水口町水口に位置する近世の城館遺跡である。野洲川によって形成された河岸段丘上に立地する。水口城の本丸は、約120m四方の方形区画の東側に、枳形の張り出し部を持つ。本丸の四方は、高さ3m前後、幅8m前後の土塁で囲まれ、堀より内側が滋賀県指定史跡に指定されている。また、本丸北側には二の丸が付随する。江戸時代後期の「水口城郭内絵図」に描かれた家臣団屋敷を含めた城地、「郭内」が遺跡の範囲となっている。

水口城は、寛永11(1634)年に徳川家光が上洛する際に築かれた宿館である。作事奉行は小堀政一(遠州)が務め、幕府京都大工頭中井正純のもと、1年余りで完成した。宿館として利用されたのは1度だけで、寛永11年から天和2(1682)年までの49年間、城番が置かれていた。天和2年に加藤明友が入部して水口藩が成立した。水口城本丸は、加藤氏の水口城拝領以降幕末まで、加藤氏自らの殿舎や藩庁として利用されることはなかった。そのため、藩主の居館と藩庁は二の丸に置かれた。

水口城遺跡では、これまでに本発掘調査は実施されておらず、小規模な試掘調査がほとんどである。試掘調査は、これまで20件実施されている(第1図)。本丸北西側を中心に、近世の遺構や遺物が確認されている。また、堀外周を巡る周遊道路工事に伴う試掘調査(05-09次)では、

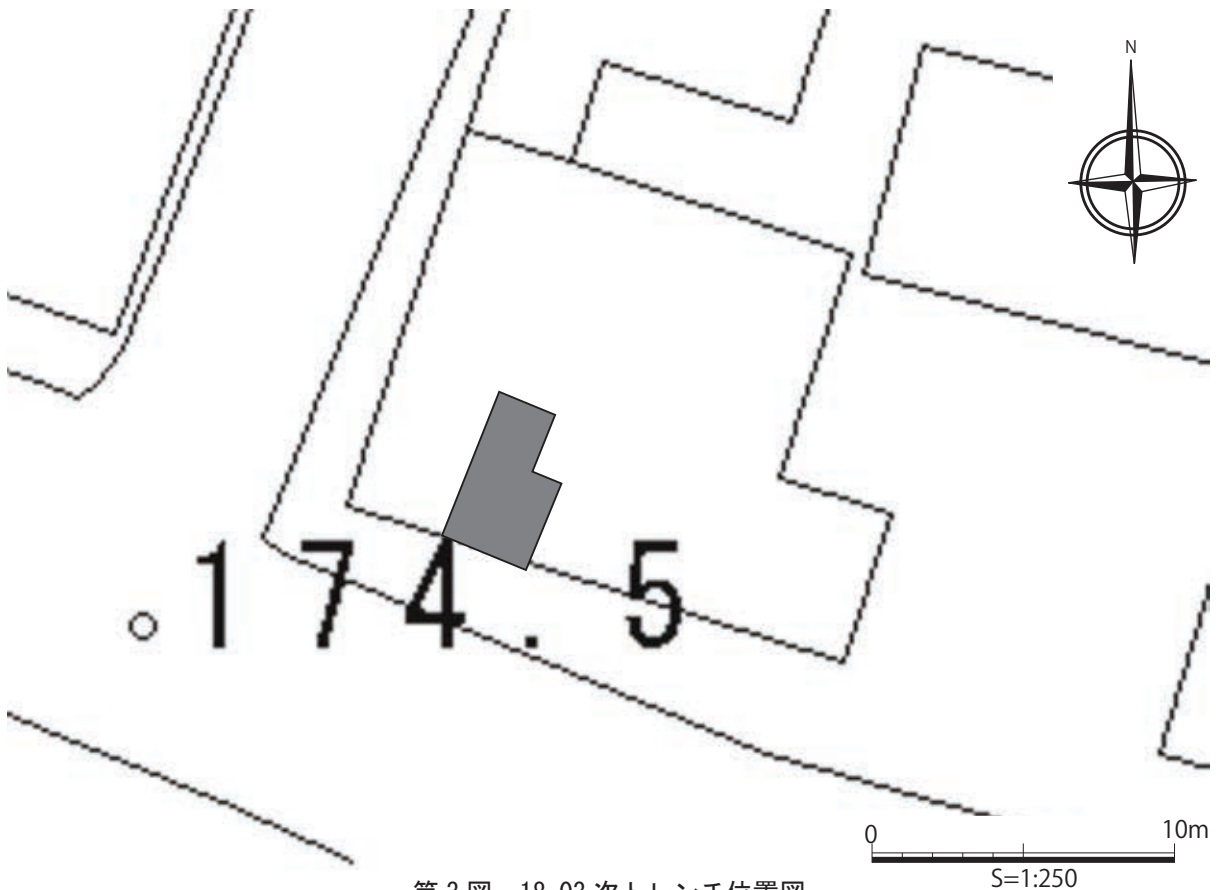


第2図 水口城遺跡内における試掘調査位置図

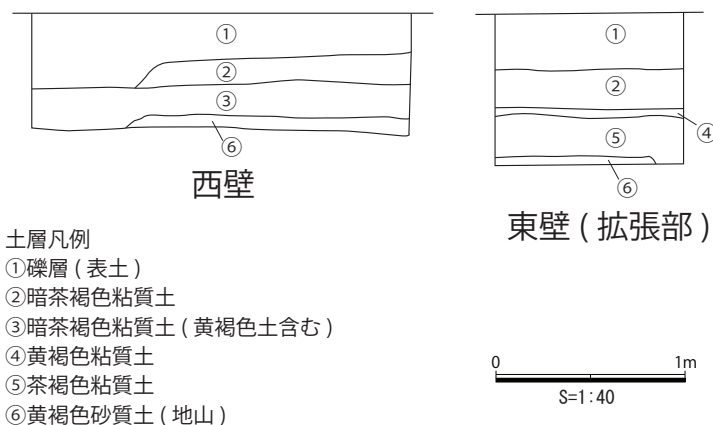
下層から平安時代中期の遺物が出土している。遺跡内では宅地化が進んでおり、明確な遺構が確認された調査はごくわずかであり、遺跡の詳細は不明である。

18-03次は、二の丸北側で実施した、民間保育施設建設に伴う試掘調査で、調査面積は13㎡である。

18-27次は、遺跡の東側、現水口高校の正門前の地点で実施した、個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は9㎡である。



第3図 18-03次トレンチ位置図



第4図 18-03次 土層断面図

調査概要

18-03 次

調査は3×3mのトレンチを1箇所設定し、北側に2×2mの規模で拡張した。基本層序は、①礫層（現代の造成土）、②暗茶褐色粘質土、③暗茶褐色粘質土（黄褐色土含む）、④黄褐色粘質土、⑤茶褐色粘質土、⑥黄褐色砂質土で、現地表面から40～70cm下で⑥層を確認した。③層には焼土が含まれていた。

土坑とみられる遺構が検出されたが、近代から現代の遺物が含まれており、遺構として取り扱っていない。遺物は、③層から近代の遺物が出土したが、小片が多く図化できない。出土遺物は近世より前のものは確認できなかった。



写真1：18-03次 全景上層



写真2：18-03次 全景下層

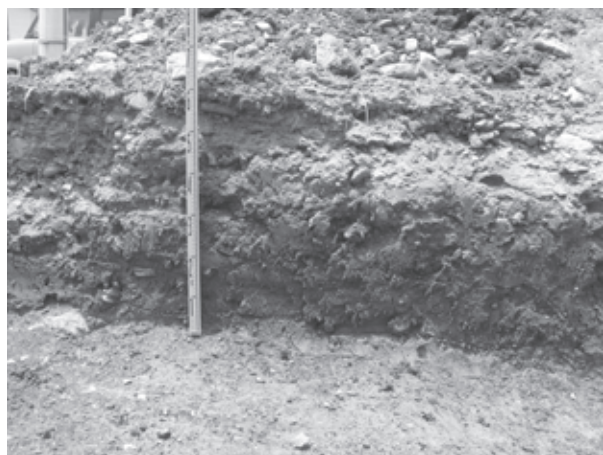


写真3：18-03次 西壁土層

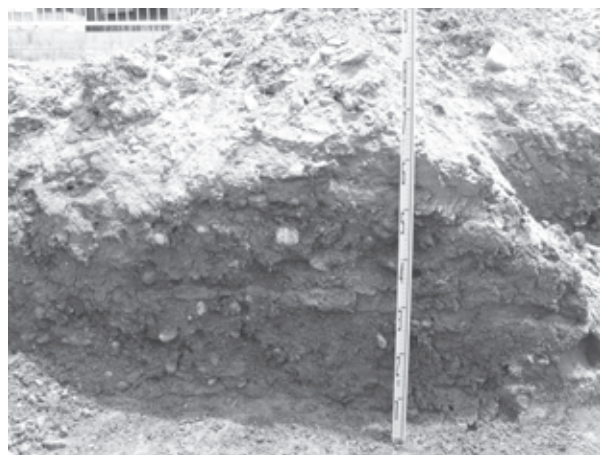
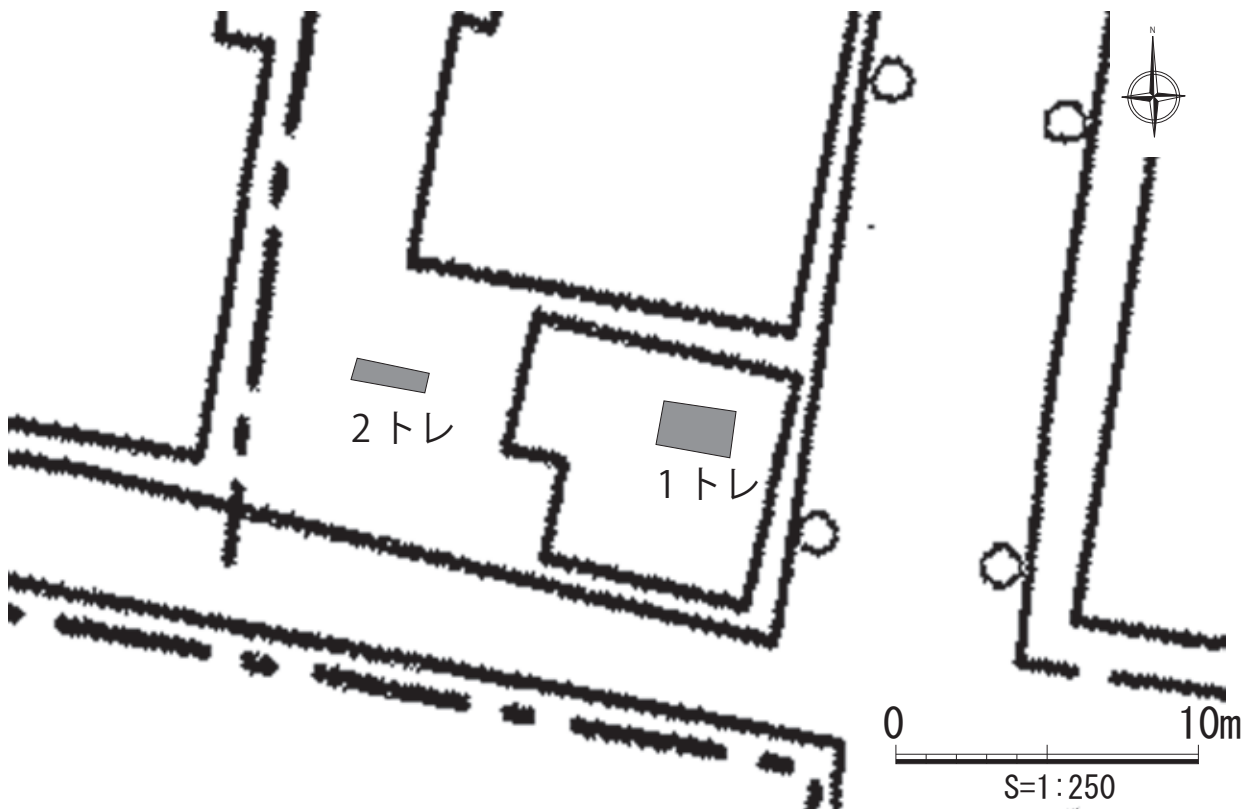


写真4：18-03次 東壁土層

18-27 次

調査は2×3mのトレンチを1箇所、1×3mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、①灰褐色土、②暗茶褐色粘質土、③暗茶褐色礫層、④明灰色細砂（礫含む）で、現地表面から約80cm下で④層を確認した。

遺構や遺物は確認されず、水口城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。



第5図 18-27次トレンチ位置図

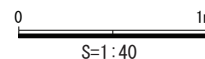
まとめ

18-03次、27次ともに、水口城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。これまでの調査と同様に、小規模な試掘調査であるため、新たな知見を得られなかった。今後の調査に期待したい。

①
②
③
④

土層凡例

- ① 灰褐色土
- ② 暗茶褐色粘質土
- ③ 暗茶褐色礫層
- ④ 明灰色細砂（礫含む）



第6図 18-27次 土層断面図



写真5：18-27次 全景



写真6：18-27次 土層

《参考文献》

甲賀市教育委員会『平成30年度 市内遺跡発掘調査報告書』2019

甲賀市史編さん委員会『甲賀市史』第3巻 道・町・村の江戸時代 2014

甲賀市史編さん委員会『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010

18-12次 上田城遺跡

調査位置と調査経緯

上田城遺跡は、甲賀町大原上田に位置する城館遺跡である。遺跡は大原上田の集落から北方の丘陵上に立地し、同じ丘陵上には谷を挟んで大宝寺遺跡、大原上田城遺跡があり、すべて城館遺跡である。

上田城遺跡は、L字状に土塁と堀が良好に残る中世城館である。L字状の土塁と堀で囲まれた曲輪の東側には、平坦面が確認できる。これまで試掘調査も含めて発掘調査は実施されていない。

18-12次は、上田城遺跡の範囲内で予定された間伐の作業道敷設に伴う試掘調査である。作業道は城跡の東側の平坦面に敷設され、地表面を一部削る行為があることから、敷設範囲に試掘トレンチを設定した。調査面積は18㎡である。

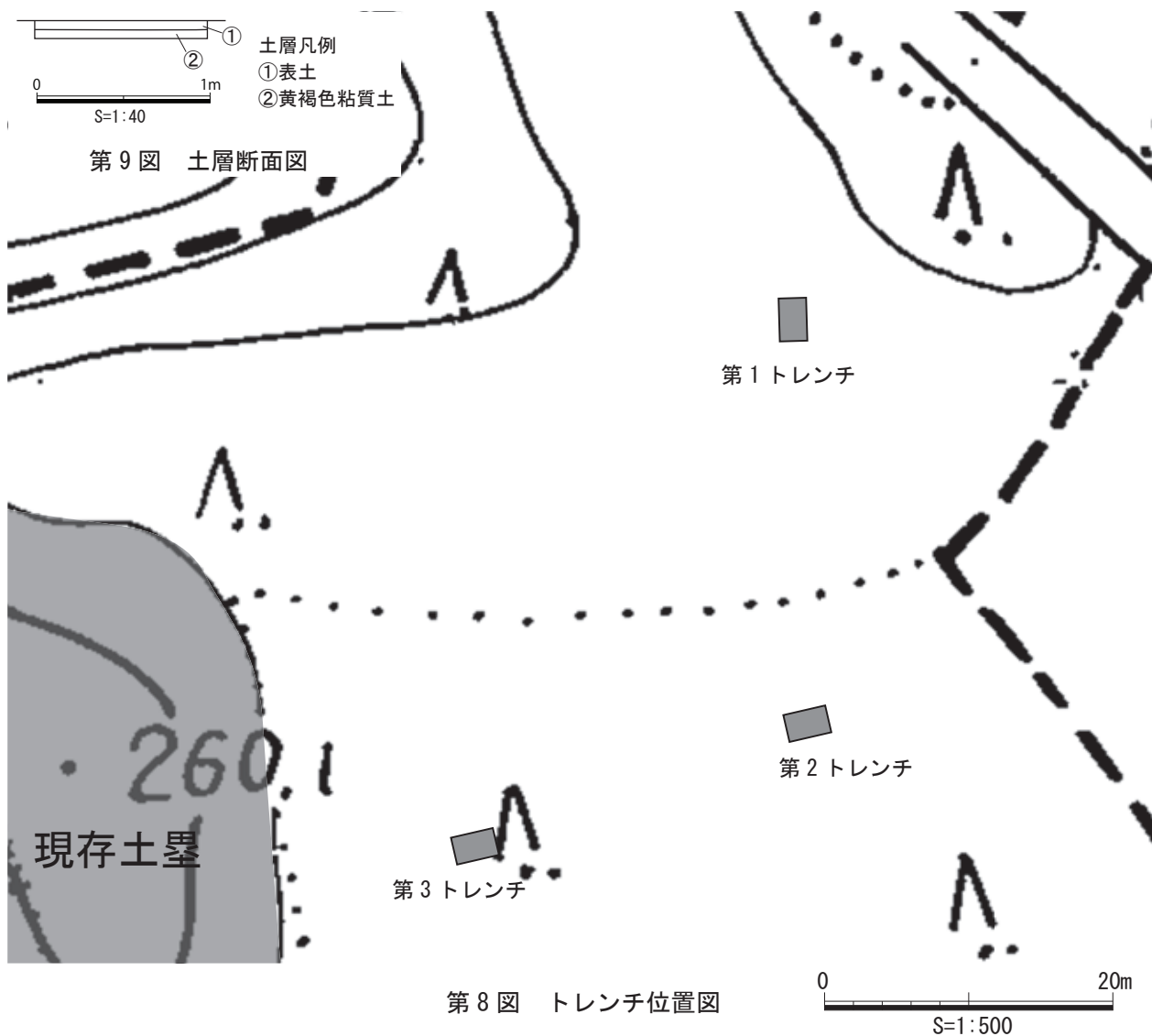


第7図 試掘調査対象範囲位置図

調査概要

調査は2×3mのトレンチを3箇所設定した。基本層序は、①灰褐色土、②暗灰褐色土粘質土で、現地表面から約20cm下で②層を確認した。

①層の表土直下が地山で、遺構や遺物は確認されなかった。



まとめ

上田城遺跡は、大宝寺遺跡や大原上田城遺跡とともに、大原の集落を見渡すことが出来る丘陵上に立地しており、砦としての機能も持ち合わせていたと考えられる。しかし、今回の試掘調査では、上田城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。試掘調査区を設定した城跡東側の平坦面の性格については、今回は範囲が限られた試掘調査であったため、今後の調査に委ねたい。

《参考文献》

『甲賀市史』第3巻 道・町・村の江戸時代 2014 甲賀市史編さん委員会

『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010 甲賀市史編さん委員会



写真 7 : 18-12 次 1 トレ全景



写真 8 : 18-12 次 2 トレ全景



写真 9 : 18-12 次 3 トレ全景

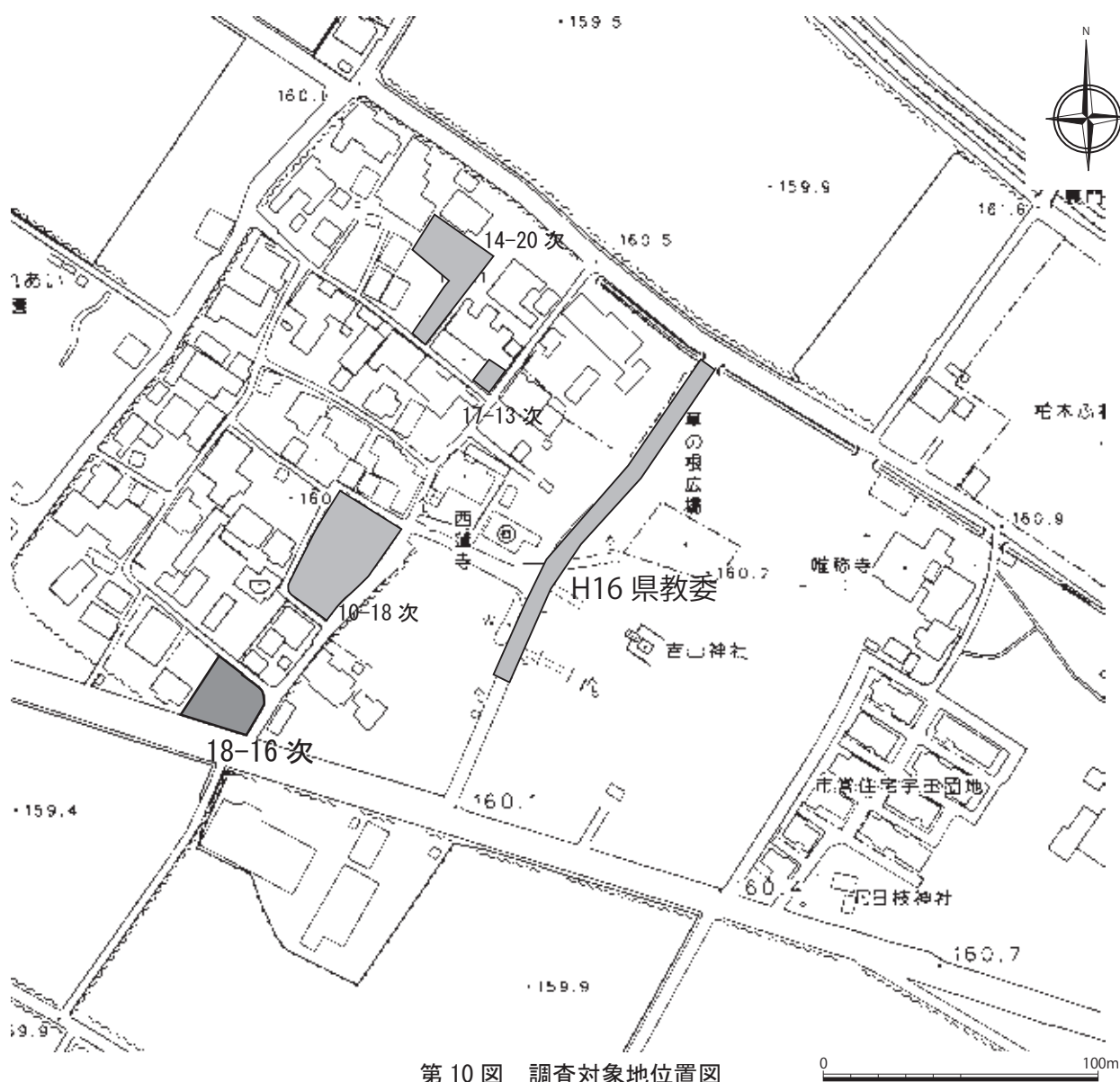
18-16次 植城遺跡

調査位置と調査経緯

植城遺跡は、水口町植に位置する中世の城館遺跡である。植城遺跡の範囲は、現在の植の集落とほぼ同じである。植村は、植城が廃城になったあと、慶長年間（1596～1615年）に清水・大宝寺の2村が、近世東海道の整備に伴い、移転したと伝えられている。

植城は東西約350m、南北約255mの長方形の範囲を、土塁と堀で細かく区画された平地城館である。明治時代の地籍図には、「城内」や「奥屋敷」など城に関わる小字名が記されている。現在では、集落東側に位置する吉山神社境内地付近を中心に、土塁が残されているが、宅地化が進んでいる集落西側には土塁はほとんど残っていない。

これまで植城遺跡では、本発掘調査が1件、試掘調査が今回の調査も含めて4件実施されている。本発掘調査は、平成16年度に滋賀県教育委員会によって、集落内を南北に通る県道の拡幅



第10図 調査対象地位置図

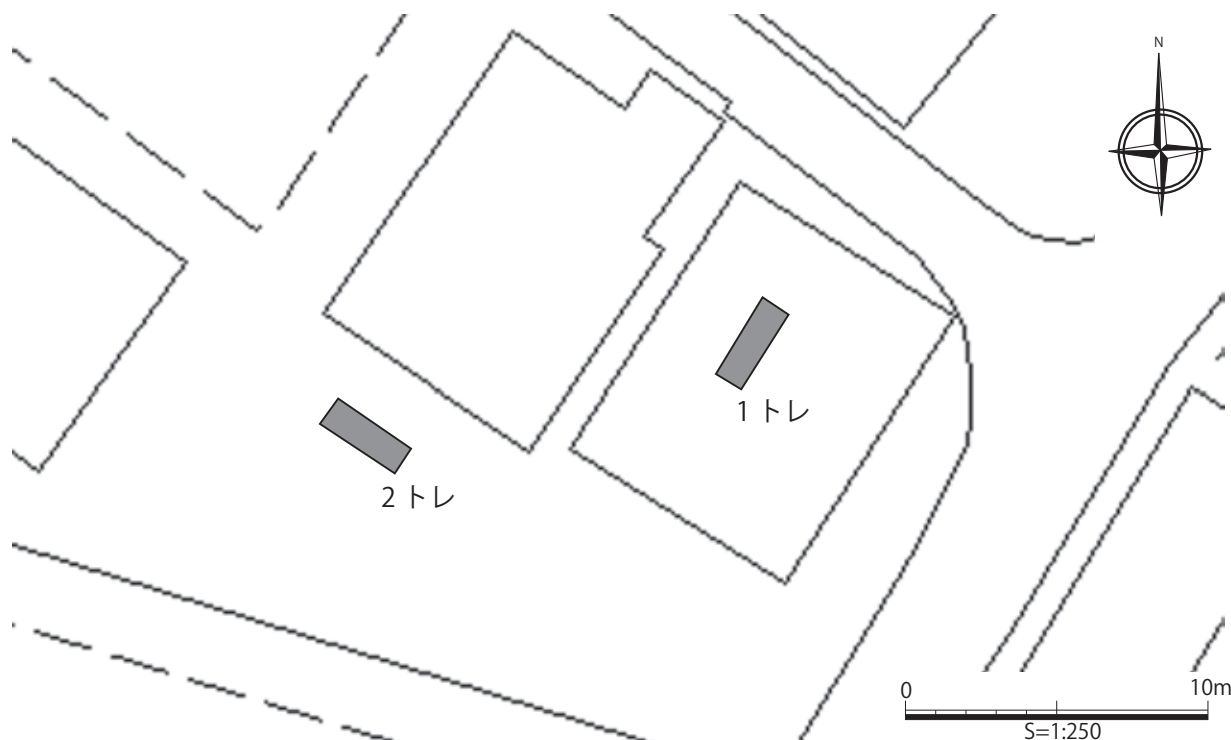
工事に伴い実施されている。試掘調査はすべて個人住宅建設に伴う調査であり、近世以降の遺物は出土するものの、植城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されていない。

18-16次は、植城遺跡の南端で実施した個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は6㎡である。

調査概要

調査は1×3mのトレンチを2箇所設定した。基本層序は、①造成土、②黒褐色粘質土、③暗茶褐色礫層で、地表面から40cm下で③層を確認した。

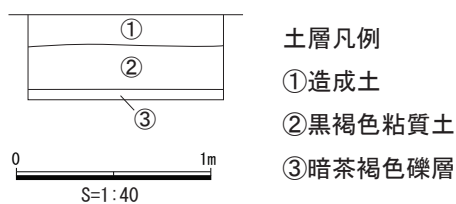
遺構・遺物ともに確認できず、遺構面と考えられる層も見られなかった。



第11図 トレンチ位置図

まとめ

今回の調査では、植城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。これまでの調査によって、植城は単郭方形城館ではなく、内部を土塁と堀で細かく区画する形態であることがわかっており、他の甲賀の城とは形態が異なる。城の形態は当時の社会構造を反映していることが多いため、この違いを明らかにすることで、戦国時代の甲賀衆の社会構造が見えてくると考えられる。今後の調査の進展が期待される。



土層凡例
 ①造成土
 ②黒褐色粘質土
 ③暗茶褐色礫層

第12図 土層断面図

《参考文献》

滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会『ほ場整備関係（経営体育成基盤整備）遺跡発掘調査報告書 33-2 植城遺跡』2006

甲賀市史編さん委員会『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010



写真 10 : 18-16 次 1 トレ全景



写真 11 : 18-16 次 1 トレ土層

18-18次 美濃部出屋敷遺跡

調査位置と調査経緯

美濃部出屋敷遺跡は、水口町水口に位置する城館遺跡である。遺跡のある一帯は、現在でも中世の「美濃部郷」に由来する「美濃部」の地名が残り、美濃部氏の本拠地であったと考えられる。美濃部氏は、伴氏、山中氏とともに柏木三方中を組織していた。

美濃部氏は、菅原道真の一子淳茂が父のことに連座して甲賀に配流されたとき、地元の土豪とのあいだにできた子の末裔という伝承をもち、室町時代には水口美濃部を本拠地とした。徳川家康に従い、関ヶ原の戦いの直後には、水口岡山城を接取し管理を任されていた。江戸時代には、一族は多く旗本に取り立てられた。

寛永11(1634)年に、水口城が築かれる際に描かれた「江州水口絵図」Ⅱには、「古屋敷」と描かれている。また、「古屋敷」と描かれている付近一帯は、昭和58(1983)年の『滋賀県中世城郭分布調査2』において、「美濃部出屋敷遺跡」として美濃部氏の城館遺構の存在が指摘され



第13図 試掘調査地位置図

0 100m

ている。

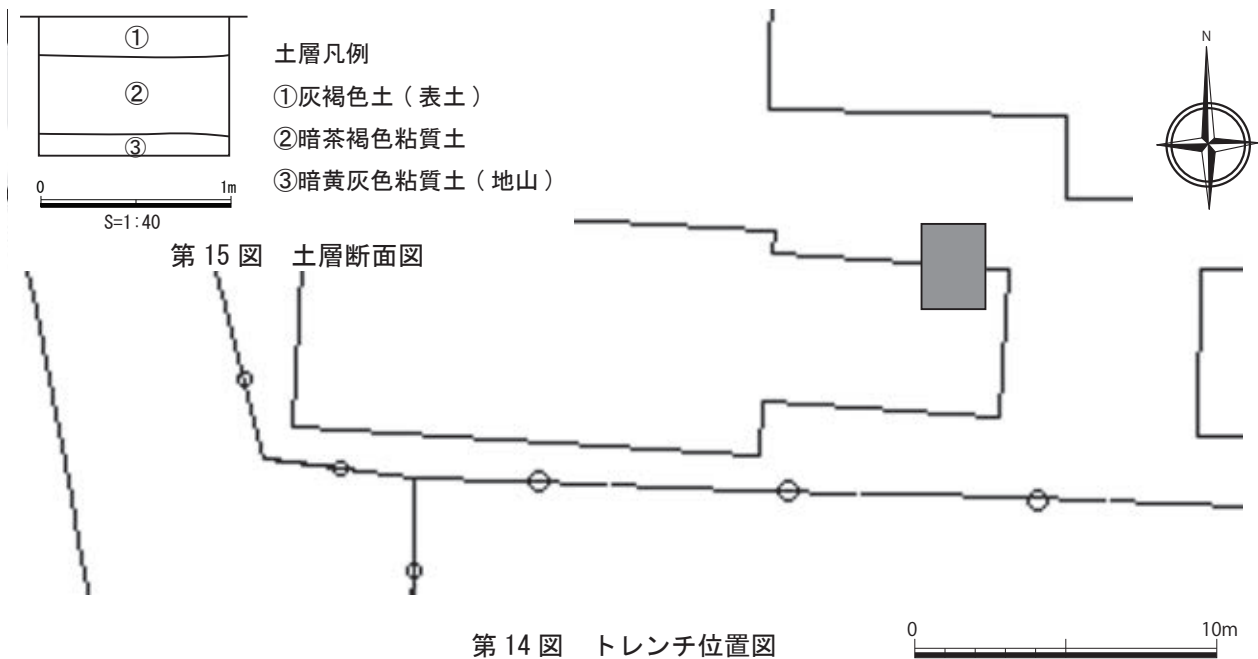
現在、土塁の一部や土塁の基底部分がわずかに残るが、これらの遺構については、美濃部氏の城館遺構に該当するか不明である。また、遺跡内での発掘調査は、試掘調査を2件実施しているが、美濃部出屋敷遺跡に関する遺構や遺物は確認されておらず、詳細は不明である。

18-18次は、遺跡の東端部で実施された個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は3㎡である。

調査概要

調査は3×1mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、①灰褐色土（表土）、②暗茶褐色粘質土、③暗黄灰色粘質土（地山）で、地表面から60cm下で③層を確認した。

遺構は確認されず、①層および②層には近現代の遺物が含まれるが、これらは遺構に伴うものではなく、二次堆積によるものであると考えられる。また、近世以前の遺物は確認されていない。



まとめ

今回の調査では、美濃部出屋敷遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。これまでの試掘調査でも、地山より上層では近世から近現代の遺物が含まれる層があり、遺跡周辺では、この時期に大きく土地の改変が行われ、近世以前の遺構は破壊されたと想定される。

今後も小規模な試掘調査がほとんどであると考えられるが、調査の進展によって、美濃部出屋敷遺跡の様相が明らかになることを期待する。

《参考文献》

『甲賀市史』第3巻 道・町・村の江戸時代 2014 甲賀市史編さん委員会

『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010 甲賀市史編さん委員会



写真 12 : 18-18 次 全景



写真 13 : 18-18 次 土層

18-19 次 木内城遺跡

調査位置と調査経緯

木内城遺跡は、甲賀町油日に位置する平地城館であり、杣川によって形成された河岸段丘上に立地している。木内城は、土塁と堀に囲まれた単郭城館で、東・西・北方向で土塁が確認できる。土塁は最も高い所で3 mを超える。城の南側は市道によって削られており、土塁は確認できないが、おそらく南側にも土塁と堀が存在したと考えられる。現況で確認できる遺構から、40 m四方の方形であったと推定される。

これまで木内城遺跡では、本発掘調査および試掘調査は実施されておらず、今回の調査が初めての事例となった。

18-19 次は、曲輪外の西側の宅地内で実施した、個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は3 m²である。

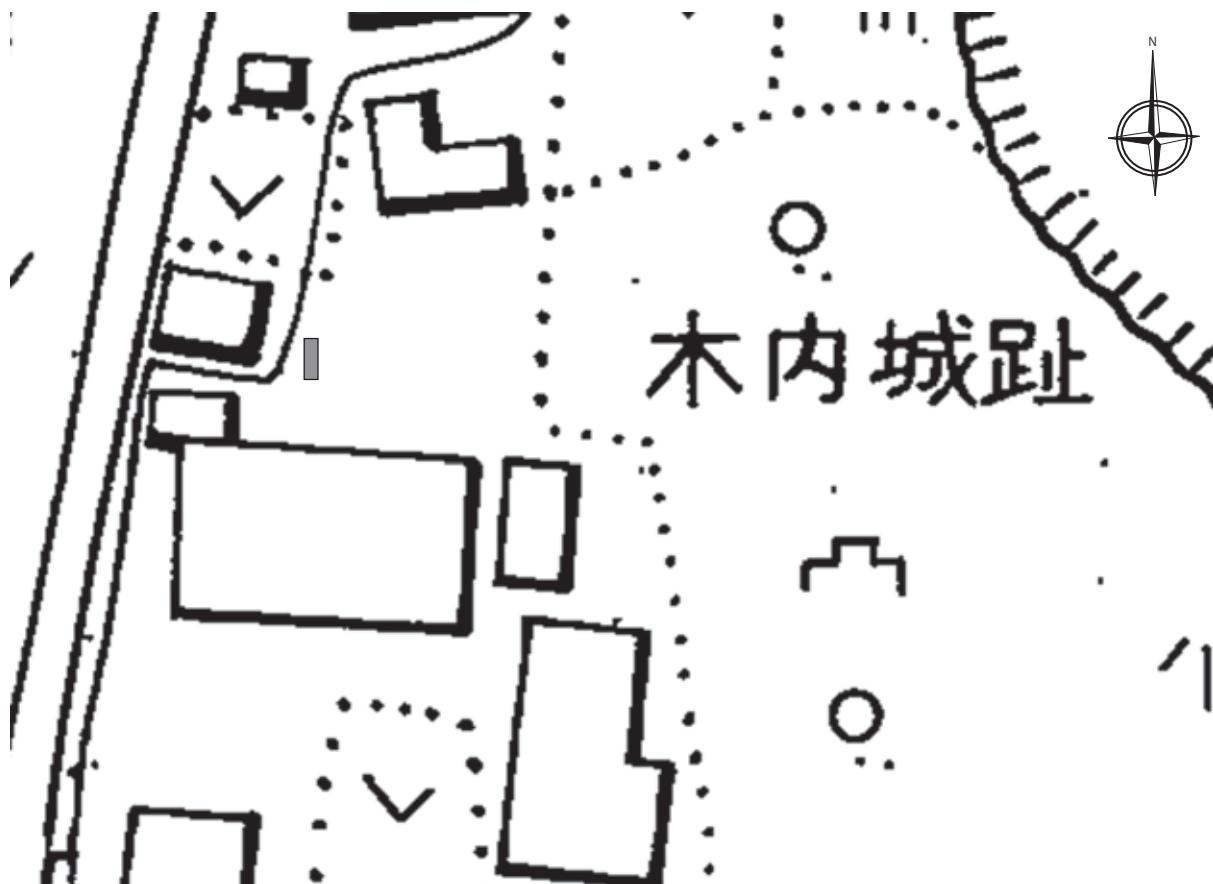


第 16 図 調査地位置図

調査概要

調査は1×3mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、①暗茶褐色土（表土）、②茶褐色粘質土、③黄褐色土礫混じり茶褐色粘質土で、地表面から50cm下で③層を確認した。

遺構は確認されず、遺構面と考えられるような安定した面はなかった。また、遺物も確認されなかった。

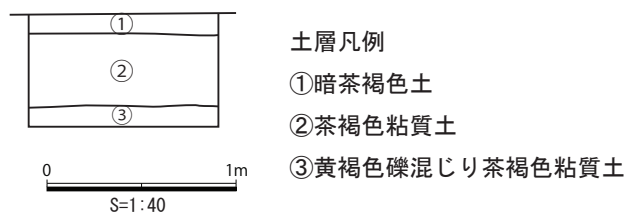


第17図 トレンチ位置図

0 10m

まとめ

今回の調査では、木内城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。この調査は個人住宅建設に伴う試掘調査であることから、調査区も小規模になってしまい、遺跡内を面的に調査することはできなかった。



第18図 土層断面図

市内のなかでも水口町以外では、大規模な開発行為は少なく、今回のような小規模な調査がほとんどである。今後の調査も、小規模な調査がほとんどであると考えられるが、小さな成果を積み重ねていくことで、大きな成果となり、甲賀の城の実態が明らかとなっていくであろう。

《参考文献》

『甲賀市史』第7巻 甲賀の城 2010 甲賀市史編さん委員会



写真 14 : 18-19 次 全景



写真 15 : 18-19 次 土層

18-23 次 中牧遺跡

調査位置と調査経緯

中牧遺跡は、信楽町牧の日雲神社から北に約 100 m の場所に位置する、近世信楽焼の窯跡である。信楽谷を南北に流れる大戸川の右岸の山腹に立地しており、連房式登窯 2 基（牧 13-1 号窯、牧 13-2 号窯）、物原が確認されている。

これまで発掘調査は実施されていないが、小杉碗・丸碗・端反碗・面取碗・平碗・蓋物・灯明皿・窯道具等が採集されている。

遺跡内を信楽高原鐵道が南北方向に通っており、18-23 次はその線路より西側で実施した、個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は 3 m² である。



第19図 試掘調査位置図

0 100m

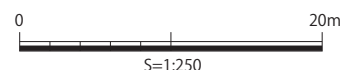
調査概要

調査は1×3mのトレンチを1箇所設定した。基本層序は、①褐色土、②暗褐色土砂質土、③茶褐色砂質土、④明褐色砂礫層、⑤暗茶褐色砂礫層で、地表面から約100cm下で⑤層を確認した。①層は造成土であるが、②層より下層は砂礫層である。

遺構は確認されず、遺構面と考えられるような安定した面はなかった。また、遺物も確認されなかった。

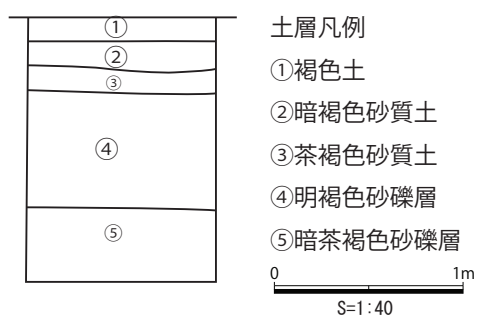


第20図 トレンチ位置図



まとめ

今回の調査では、中牧遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。遺跡の範囲は線路を挟んで東西に分かれている。東側の山中には、調査時に踏査をしたところ、現在でも陶器や窯道具が散布している。対して、西側は宅地化されており、遺物が散布している状況は確認できない。これらのことから、中牧遺跡の中心（窯跡や物原）は線路よりも西側にあることがわかった。



第21図 土層断面図

《参考文献》

信楽町教育委員会『信楽焼古窯跡群分布調査報告書』2003



写真 16 : 18-23 次 全景



写真 17 : 18-23 次 土層

18-24 次 下川原遺跡

調査位置と調査経緯

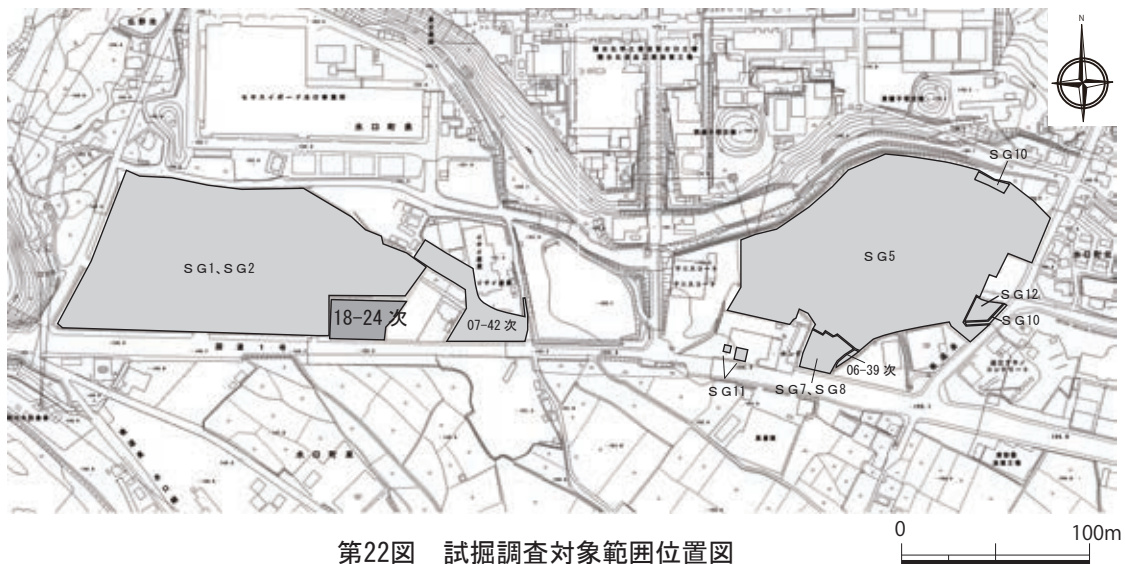
下川原遺跡は、甲賀市と湖南市の市境近くの水口町泉に位置する集落遺跡である。野洲川が形成した河岸段丘上に立地する。遺跡は東西約 1 km、南北 200 ～ 250m の範囲に広がり、そのほぼ中央部に北側の水口丘陵から舌状にのびる尾根がある。この尾根が下川原遺跡を東西に二分する。

発掘調査はこれまで、第 12 次調査まで実施されている。その中でも第 2 次調査は、遺跡の西半部で面積は 5700 m² という大規模面積で行われた。調査の結果、竪穴建物 50 棟、掘立柱建物 11 棟が見つかった。遺物は、6 世紀末～8 世紀の須恵器や土師器がある。これら出土遺物から検討した結果、下川原遺跡では 6 世紀末頃から小規模な集落が形成され、7 世紀前半から規模が大きくなり、8 世紀になると集落が衰退していることがわかった。

遺跡の東半部の調査は、西半部と異なり小規模な調査が多い。第 8 次調査では、集落の南限と推定される溝が見つかり、7～8 世紀と 10 世紀、13 世紀の遺物が出土し、3 時期のまとまりが確認されている。第 11 次調査でも、南限の溝が確認され、同時期の遺物が出土している。

下川原遺跡の最盛期は 7 世紀であると考えられるが、6 世紀後半から 14 世紀までの幅広い時期の遺物が出土しており、複数の時代にわたって集落が営まれていたと考えられる。

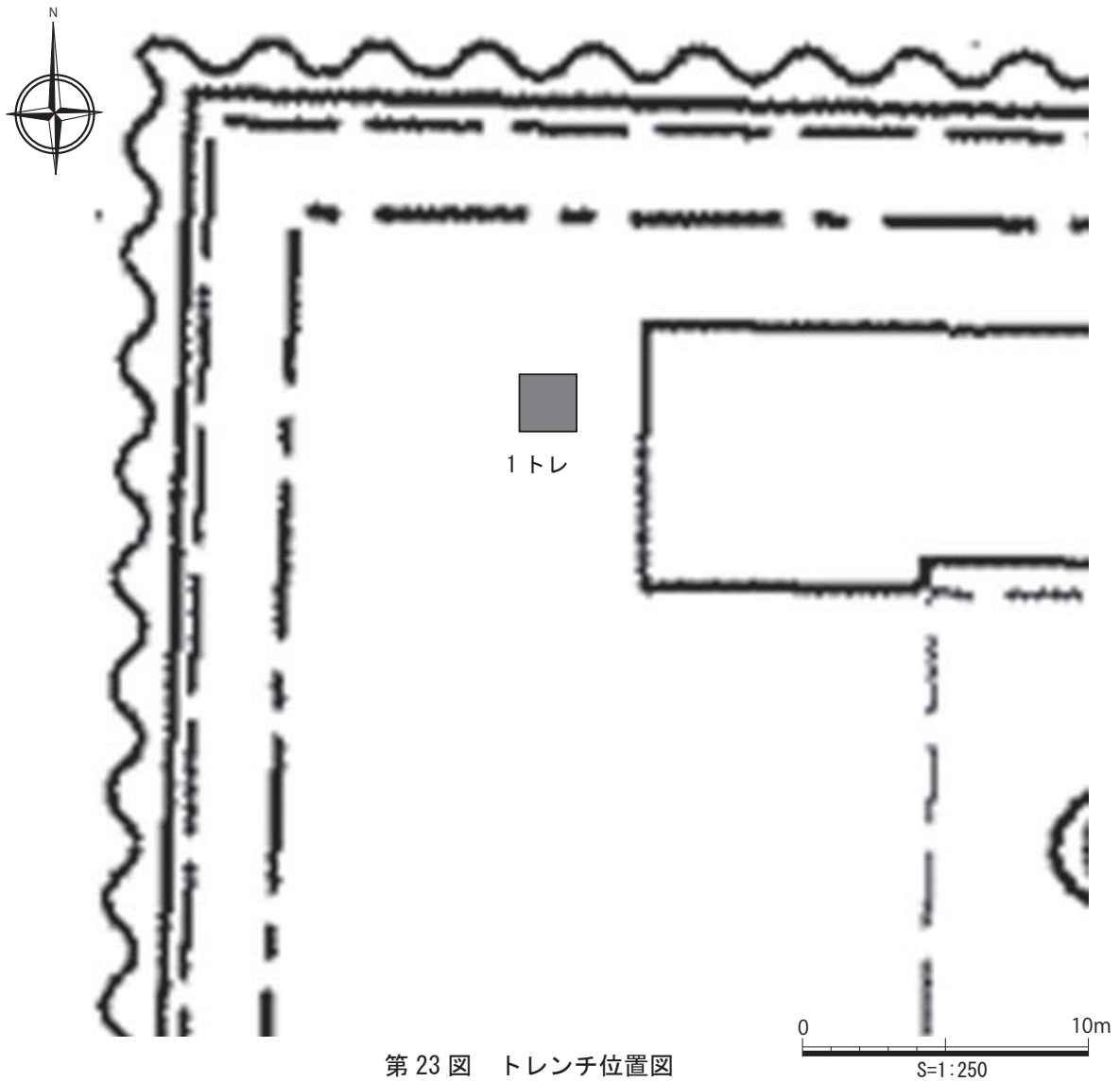
18-24 次は、遺跡の西半部南側で実施した、ガソリンスタンド建て替えに伴う試掘調査で、調査面積は 4 m² である。



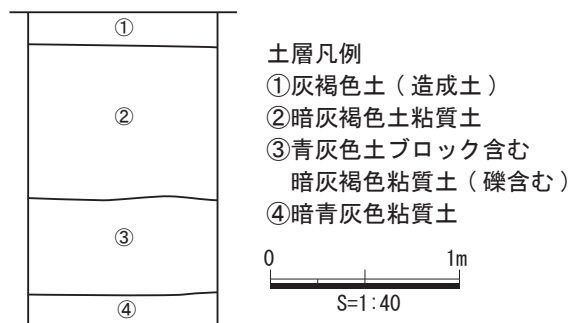
第22図 試掘調査対象範囲位置図

調査概要

調査は 2 × 2 m のトレンチを 1 箇所設定した。基本層序は、①灰褐色土、②暗灰褐色粘質土、③青灰色土ブロック含む暗灰褐色粘質土、④暗青灰色粘質土で、地表面から約 150cm 下で④層を確認した。①、②層は造成土、③、④層は谷地形の堆積とみられる。



第 23 図 トレンチ位置図



第 24 図 土層断面図

遺構、遺物ともに確認されなかった。

まとめ

今回の調査では、新たに下川原遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。遺跡のほぼ中央に、北から南の方向に舌状の尾根が延びており、これに沿うように東西方向の地形が形成され、

段丘ができています。これまでの調査成果から、この段丘上に集落が形成され、南側には集落の南限を示す溝が掘られていると考えられる。

今回の調査地は、その段丘よりも下であったことから、遺構面は確認されず、谷地形の堆積が確認されたと考えられる。

下川原遺跡は、水口盆地の土地利用を考える上で重要な遺跡であることから、今後の調査の進展に期待したい。

《参考文献》

甲賀市教育委員会・積水化学工業株式会社『下川原遺跡発掘調査報告書－滋賀県甲賀市水口町所在－』2006

甲賀市教育委員会『下川原遺跡発掘調査報告書』2008

甲賀市教育委員会『北脇遺跡第12次・下川原遺跡第10次発掘調査報告書』2010

甲賀市教育委員会『下川原遺跡第11次・竹石遺跡第1次発掘調査報告書』2011

甲賀市教育委員会『下川原遺跡第12次発掘調査報告書』2013

甲賀市史編さん委員会『甲賀市史』第5巻 信楽焼・考古・美術工芸 2013



写真 18 : 18-23 次 全景



写真 19 : 18-23 次 土層

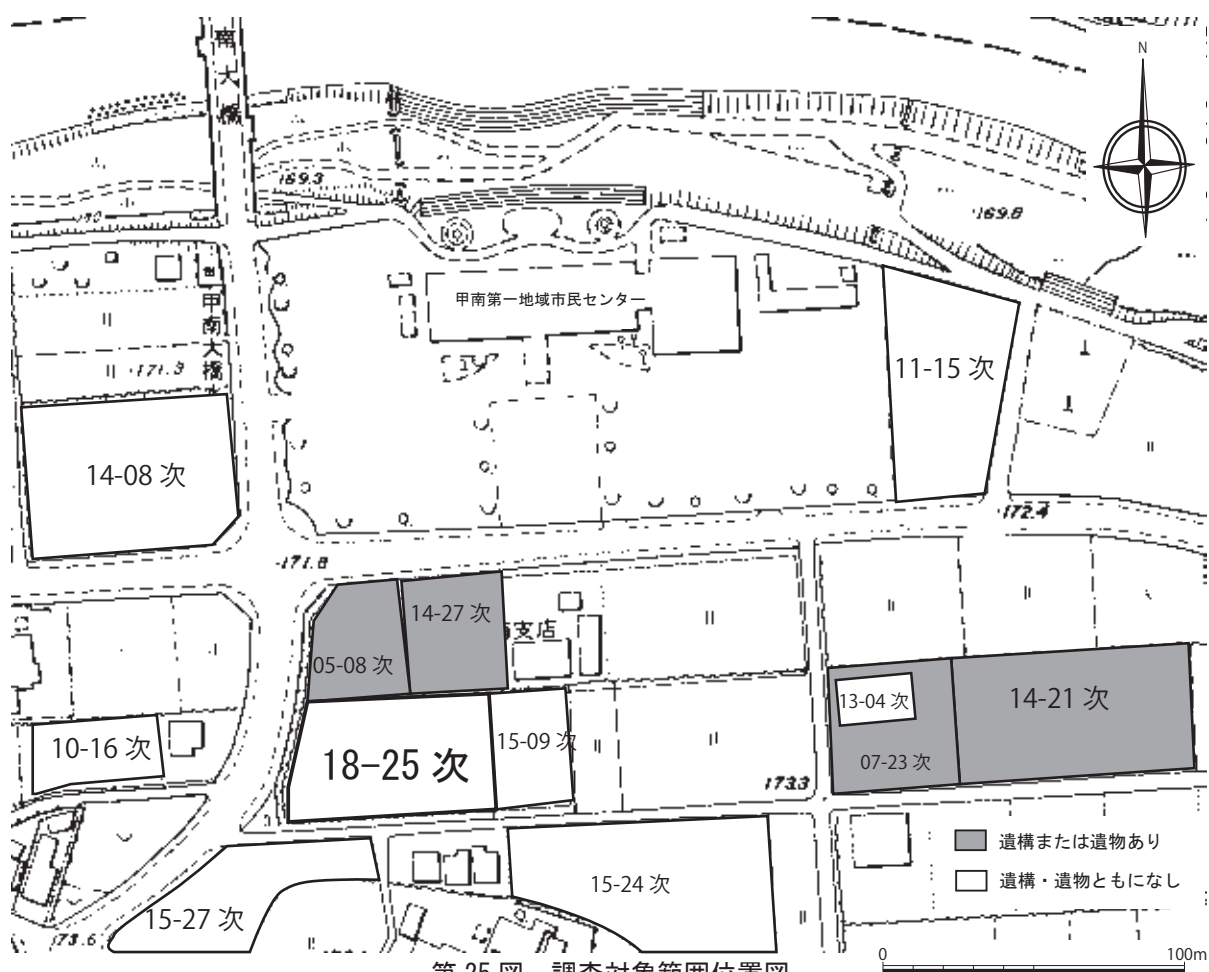
18-25 次 下浦遺跡

調査位置と調査経緯

下浦遺跡は、甲南町野田に位置する集落遺跡である。平成 17 年に店舗建設に伴う発掘調査で新たに発見された遺跡である。この発掘調査では、溝や噴砂痕跡を検出し、須恵器や緑釉陶器、灰釉陶器、信楽焼播鉢などが出土している。噴砂痕跡は、水口城も被害を受けた安政元（1854）年の伊賀地震によるものであると推定されている。

この調査以外にも、下浦遺跡では試掘調査が 4 回実施されている。しかし、下浦遺跡の様相がわかるような遺構・遺物は確認されず、遺跡の詳細は不明である。

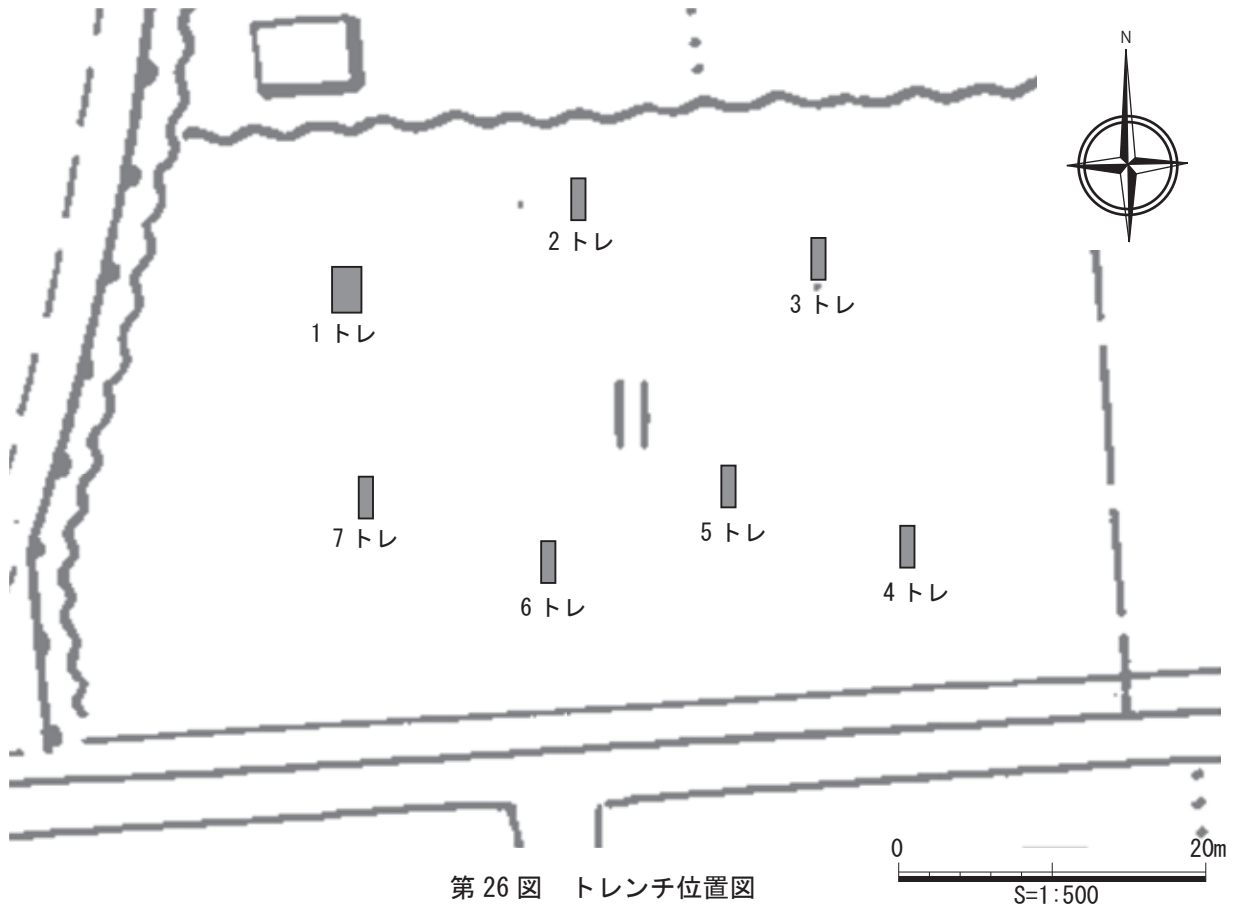
18-25 次は、遺跡の南西側で実施された、宅地造成に伴う試掘調査で、調査面積は 24 m²である。



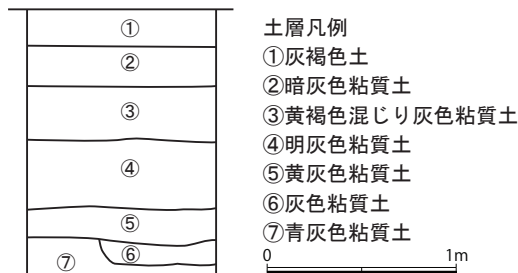
調査概要

調査は 2 × 3 m を 1 箇所、1 × 3 m を 6 箇所設定した。基本層序は①灰褐色土（耕作土）、②暗灰色粘質土、③黄褐色土混じり灰色粘質土、④明灰色粘質土、⑤黄灰色粘質土、⑥灰色砂質土、⑦青灰色粘質土で、地表面から 120cm 下で⑦層を確認した。

遺構・遺物ともに確認されていない。



第 26 図 トレンチ位置図



第 27 図 土層断面図

まとめ

今回の調査では、下浦遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。今回の調査地は、平成17年度の調査地の隣接地であることから、遺構の存在が推定されたが、確認されなかった。調査地東側でも試掘調査が実施されており、こちらでは遺構面（黄灰色粘質土）はあるが遺構は確認されなかった。

下浦遺跡では、明確な遺構が確認されていないため、集落の様相は明らかとなっていないが、古代から中世にかけての遺物が出土しており、長期にわたって人々の生活の痕跡が想定される。今後の調査に期待したい。

《参考文献》

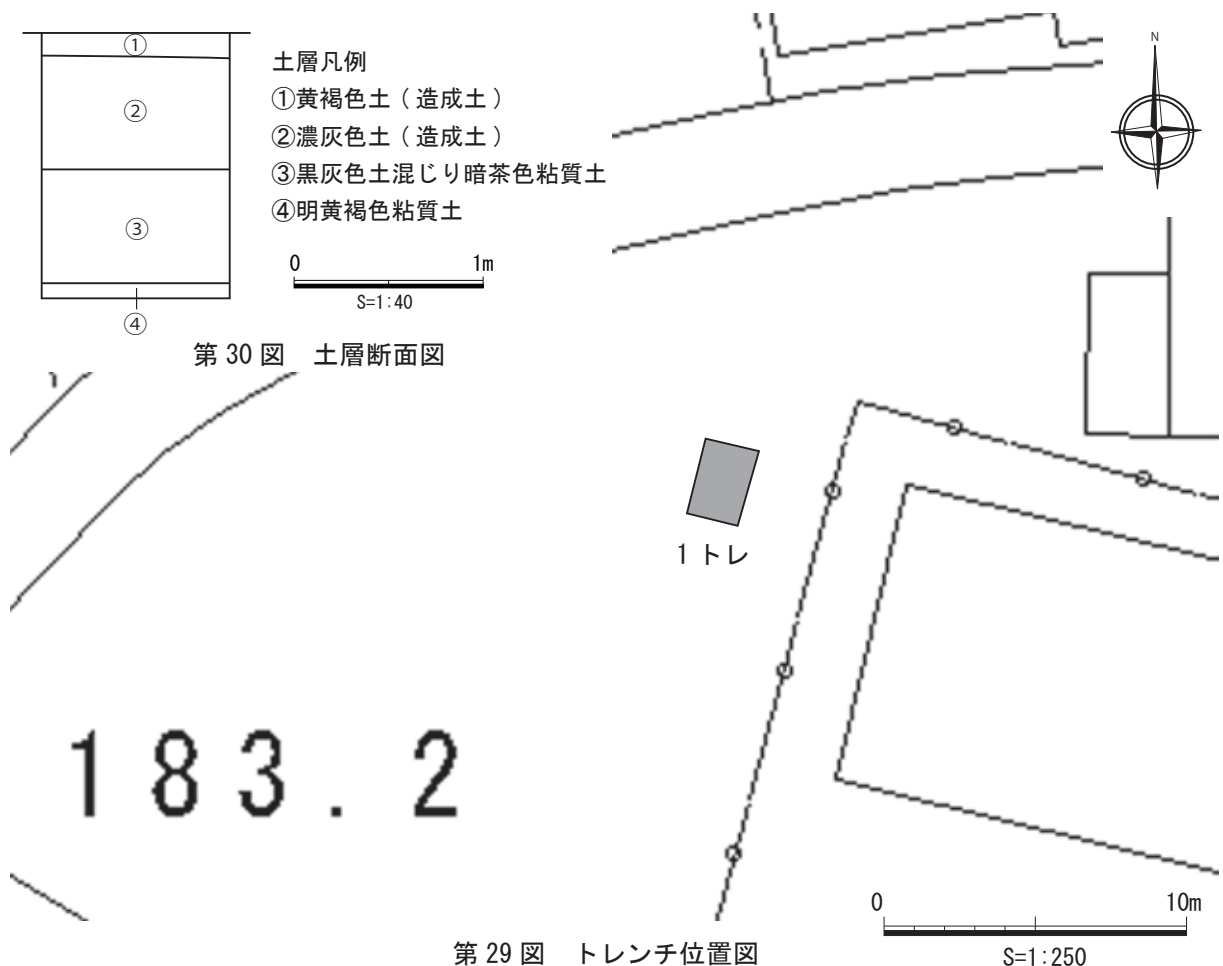
甲賀市教育委員会『下浦遺跡発掘調査報告書』2006



写真 18 : 18-25 次 全景



写真 19 : 18-25 次 土層



第 30 図 土層断面図

第 29 図 トレンチ位置図

推定地周辺で実施された。調査の結果、城郭と城下町を区画する堀の一部であるとみられる東西方向に延びる堀が検出されている。

18-26 次は、遺跡の東端で実施した、個人住宅建設に伴う試掘調査で、調査面積は 6 m²である。

調査概要

調査は 2 × 3 m のトレンチを 1 箇所設定した。基本層序は、①黄褐色土、②濃灰色土、③黒灰色土混じり暗茶色粘質土（現代のゴミ含む）、④明黄褐色粘質土で、地表面から約 130cm 下で④層を確認した。①、②、③層は土地造成に伴う盛土で、④層は地山層である。

遺構、遺物ともに確認できていない。

まとめ

今回の調査では、水口岡山城遺跡に関する埋蔵文化財は確認されなかった。平成 29 年度の調査では城と城下町を区画する堀跡が確認されたが、今回の調査地では遺構が確認されなかった。

《参考文献》

甲賀市教育委員会『水口岡山城跡総合調査報告書』2016
 甲賀市教育委員会『平成 30 年度市内遺跡発掘調査報告書』2019



写真 22 : 18-26 次 上層全景



写真 23 : 18-26 次 土層

報告書抄録

ふりがな	れいわがんねんど しないいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	令和元年度 市内遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	甲賀市文化財報告書							
シリーズ番号	第34集							
編著者名	伊藤 航貴							
編集機関	甲賀市教育委員会							
所在地	滋賀県甲賀市水口町水口6053番地							
発行年月日	令和2年(2020年)3月19日							
所収遺跡	所在地	コード		世界測地系		調査面積(m ²)	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちじょういせき 水口町城内	25209	363-113	34° 58' 20"	136° 09' 56"	13	2018/7/3	民間保育 関係施設
みなくちじょういせき 水口城遺跡	みなくちじょういせき 水口町梅ヶ丘	25209	363-113	34° 58' 16"	136° 10' 01"	9	2019/2/4	個人住宅
うえだじょういせき 上田城遺跡	こうかちじょういせき 甲賀町大原上田	25209	363-101	34° 54' 43"	136° 14' 18"	12	2018/9/21	間伐、作業道 の敷設
うえじょういせき 植城遺跡	みなくちじょういせき 水口町 植	25209	363-025	34° 58' 27"	136° 08' 40"	6	2018/11/13	個人住宅
みのべでやしきいせき 美濃部出屋敷遺跡	みなくちじょういせき 水口町八光	25209	363-112	34° 58' 13"	136° 10' 07"	3	2018/10/29	個人住宅
きないじょういせき 木内城遺跡	こうかちじょういせき 甲賀町上野	25209	365-072	34° 53' 23"	136° 14' 06"	3	2018/11/13	個人住宅
なかまきいせき 中牧遺跡	しがらきじょういせき 信楽町牧	25209	367-062	34° 54' 34"	136° 04' 59"	3	2019/3/1	個人住宅
しもがわらいせき 下川原遺跡	みなくちじょういせき 水口町泉	25209	363-116	34° 59' 07"	136° 07' 43"	4	2019/2/8	ガソリンスタンド建 て替え
しもうらいせき 下浦遺跡	こうなんじょういせき 甲南町野田	25209	363-114	34° 55' 35"	136° 10' 03"	24	2019/1/28	宅地造成
みなくちおかやまじょういせき 水口岡山城遺跡	みなくちじょういせき 水口町秋葉	25209	363-087	34° 58' 02"	136° 10' 59"	6	2019/2/4	個人住宅
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
水口城遺跡	城館跡	近世						
上田城遺跡	城館跡	室町						
植城遺跡	城館跡	古墳・室町						
美濃部出屋敷遺跡	城館跡	近世						
木内城遺跡	城館跡	中世						
中牧遺跡	生産遺跡	江戸						
下川原遺跡	集落跡	古墳～古代						
下浦遺跡	散布地	古代～中世						
水口岡山城遺跡	城館跡	室町						

甲賀市文化財報告書第34集
令和元年度 市内遺跡発掘調査報告書

印刷・発行	2020年3月19日
編集・発行	甲賀市教育委員会 滋賀県甲賀市水口町水口6053番地 TEL 0748-69-2250 FAX 0748-69-2293
印刷	特定非営利活動法人 アイ・コラボレーション信楽